

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

福島県避難地域広域公共交通計画の評価等結果（令和5年10月～令和6年9月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
1日当たりの利用者数及び事業収支	運行ルートの見直し、利活用推進のため住民への周知等の取組の実施	バス事業者からの報告及び関係機関による検証会議の実施	別紙「福島県避難地域広域公共交通計画の進捗状況について」のとおり	別紙「福島県避難地域広域公共交通計画の進捗状況について」のとおり	

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

福島県避難地域広域公共交通計画の進捗状況について

□施策 1 広域路線バスの運行

事業 1-1 川内～富岡系統

利用状況 (1日当たり)	<ul style="list-style-type: none"> ◆通学利用者 <ul style="list-style-type: none"> ・通学利用なし ◆通勤利用者 <ul style="list-style-type: none"> ・富岡町文化交流センター ⇄ 富岡駅前 (1.0名) ◆主な利用 <ul style="list-style-type: none"> ・「富岡駅前～富岡町文化交流センター」、「とみおかアーカイブ～かわうちの湯」間での利用が多く見られる。 				
指標	年 度	1日当たりの 利用者数		事業収支	
	令和元年事業年度 <基準値>	2.3人	—	3.9%	—
	令和4年事業年度 <現況値>	1.8人	↓	5.7%	↑
	令和5年事業年度 <今回評価値>	2.5人	↑	7.4%	↑
	令和6年事業年度 <今回評価値>	2.3人	↓	5.1%	↓
	目標達成状況	目標値：7.5人以上 (目標未達)		目標：事業収支の上昇 (目標未達)	
施策の取組 状況	<ul style="list-style-type: none"> ①利活用の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・町内で乗降する場合について一律 100 円で乗降できる補助を実施 (富岡町) ・バス運賃の 1/2 補助を実施 (川内村) ・高校生へのバス運賃補助 (上限月 3 万円) を実施 (川内村) ②運行ルートの見直し <ul style="list-style-type: none"> ・利用実態を確認の上、引き続き検討。 ③運行ダイヤの見直し <ul style="list-style-type: none"> ・JR常磐線との接続を含め、引き続き検討。 				
課題・取組 の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・川内村複合商業施設「Y-O-T-A-S-H-I」前のバス停設置を検討する。 ・利用状況や移動需要を分析し、運行ルート、運行ダイヤの見直しを引き続き検討していく。 				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・川内村からの通院、通学、買い物等の移動は、一部は田村市や小野町に流れており、また、富岡町近隣エリアの居住者も減少している。 ・利用者数は令和元年度から大きな変化はないが、JR常磐線への接続による相双地域への通学など、川内村からのアクセスで重要な公共交通となっている。 				

事業1-2 いわき～富岡系統

利用状況 (1日当たり)	<p>◆通学利用者 6.0名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平六小入口 ⇄ 中島 (2.4名) ・富岡駅前 ⇄ 広野町役場 (0.5名) <p>◆通勤利用者 12.0名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわき駅前 ⇄ 富岡駅前 (0.7名) ・いわき駅前 ⇄ 道の駅ならば (2.8名) <p>◆主な利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわき市内のみの利用が大半である。富岡町から檜葉町、広野町、いわき市への利用者も見られる。 				
指標	年 度	1日当たりの 利用者数		事業収支	
	令和元年事業年度 <基準値>	10.1人	—	3.9%	—
	令和4年事業年度 <現況値>	11.9人	↑	5.7%	↑
	令和5年事業年度 <今回評価値>	14.7人	↑	7.0%	↑
	令和6年事業年度 <今回評価値>	34.4人	↑	8.1%	↑
	目標達成状況	目標値：20.0人以上 (目標達成)		目標：事業収支の上昇 (目標達成)	
施策の取組 状況	<p>①利活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民バスとの接続 (広野町) ・町内で乗降する場合について一律100円で乗降できる補助を実施 (富岡町) ・プレミアム付き乗車回数券の発行 (いわき市) <p>②運行ルートの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわき市内の並行路線「平～四倉線」のバス停の追加。 <p>③運行ダイヤの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②と併せて、通勤、通学に適した運行ダイヤの見直し。 				
課題・取組 の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停の追加設置により利用者数は急増し、目標達成。引き続き、利用状況や移動需要を分析しながら、笑みふるタウン (檜葉町)、富岡産業団地 (富岡町) へのバス停設置を検討する。 ・ふたば未来学園への通学利便性の強化を図るため、部活動からの帰宅時間に合わせた運行ダイヤの見直しを検討する。 				

事業1-3 葛尾～船引系統

利用状況 (1日当たり)	<p>◆通学利用者 ・落合 ⇄ 船引駅前 (2名) ※定期券利用人数</p> <p>◆通勤利用者 ・通勤利用なし</p> <p>◆主な利用 ・「船引駅前」～「落合」(葛尾村内の終点)間の利用が最も多い。</p>				
指標	年 度	1日当たりの 利用者数		事業収支	
	令和元年事業年度 <基準値>	18.0人	—	10.4%	—
	令和4年事業年度 <現況値>	16.9人	↓	12.2%	↑
	令和5年事業年度 <今回評価値>	15.6人	↓	10.2%	↓
	令和6年事業年度 <今回評価値>	13.4人	↓	8.5%	↓
	目標達成状況	目標値：30.0人以上 (目標未達)		目標：事業収支の上昇 (目標未達)	
施策の取組 状況	<p>①利活用の推進 ・公共交通マップを制作し、周知を実施(田村市) ・広報誌にバス運行ダイヤを掲載(葛尾村)</p> <p>②運行ルートの見直し ・利用実態を確認の上、引き続き検討。</p> <p>③運行ダイヤの見直し ・磐越東線との接続を含め、引き続き検討。</p>				
課題・取組 の方向性	<p>・利用実態を踏まえながら、競合路線である「移線」、「百目木線」との再編・統合を検討していく。</p>				
特記事項	<p>・利用者が少しずつ減少してきているが、葛尾村から船引高校への通学利用など、住民の生活の足として重要な公共交通となっている。</p>				

事業1-4 川内～船引系統

利用状況 (1日当たり)	◆通学利用者 ・宮ノ下 ⇄ 船引駅前 (1名) ※定期券利用人数 ・車庫前 ⇄ 船引駅前 (2名) ※定期券利用人数 ◆通勤利用者 ・林 ⇄ 船引駅方面 (1名) ※定期券利用人数 ◆主な利用 ・田村市内において、船引高校や船引駅前での乗降が多い。 ・川内村内から船引方面への通学・通勤の利用もある。				
指標	年 度	1日当たりの 利用者数		事業収支	
	令和元年事業年度 <基準値>	32.1人	-	18.3%	-
	令和4年事業年度 <現況値>	28.3人	↓	17.5%	↓
	令和5年事業年度 <今回評価値>	27.4人	↓	15.7%	↓
	令和6年事業年度 <今回評価値>	25.8人	↓	13.7%	↓
	目標達成状況	目標値：50.0人以上 (目標未達)		目標：事業収支の上昇 (目標未達)	
施策の取組 状況	①利活用の推進 ・公共交通マップを制作し、周知を実施 (田村市) ・バス運賃の1/2補助を実施 (川内村) ・高校生へのバス運賃補助 (上限月3万円) を実施 (川内村) ②運行ルートの見直し ・利用実態を確認の上、引き続き検討。 ③運行ダイヤの見直し ・磐越東線との接続を含め、引き続き検討。				
課題・取組 の方向性	・利用実態を踏まえながら、競合路線である「古道線」との再編・統合を検討していく。				
特記事項	・利用者が少しずつ減少してきているが、川内村から船引高校への通学利用など、住民の生活の足として重要な公共交通となっている。				

事業1-5 川内～小野系統

利用状況 (1日当たり)	<p>◆通学利用者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮ノ下 ⇄ 小野高校前 (2.0名) ・川内農協 ⇄ 小野高校前 (2.0名) <p>(小野高校への通学利用。川内村から片道利用の状況も見られる。)</p> <p>◆通勤利用者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3.0名 <p>◆主な利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆふね、子安川、館屋、川内農協、宮ノ下～小野病院、JR神俣駅、おのショッピングプラザ、小野高校 				
指標	年 度	1日当たりの 利用者数		事業収支	
	令和元年事業年度 <基準値>	5.3人	—	2.8%	—
	令和4年事業年度 <現況値>	10.3人	↑	7.2%	↑
	令和5年事業年度 <今回評価値>	7.3人	↓	7.0%	↓
	令和6年事業年度 <今回評価値>	5.3人	↓	5.5%	↓
	目標達成状況	目標値：13.5人以上 (目標未達)		目標：事業収支の上昇 (目標未達)	
施策の取組 状況	<p>①利活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ、公共交通マップに新常磐交通ホームページへのリンクを掲載(田村市) ・バス運賃の1/2補助を実施(川内村) ・高校生へのバス運賃補助(上限月3万円)を実施(川内村) ・広報誌やSNS等を通じて通学、通勤等での利用呼び掛け(小野町) ・プレミアム付き乗車回数券の発行(いわき市) <p>②運行ルートの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用実態を確認の上、引き続き検討。 <p>③運行ダイヤの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磐越東線との接続を含め、引き続き検討。 				
課題・取組 の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が令和元年度から令和4年度までは少しずつ増加していたが、令和5年度は減少に転じた。小野高校への通学利用が主な利用となっており、小野高校が令和8年4月に統合を予定しているため、統合後の利用者減少が課題となっている。 ・小野富岡線の改良に伴う運行ルート見直しを検討する。 				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・小野町への通院利用では、川内村で無料の外出支援送迎サービス事業を行っており、通院では本系統はあまり利用されていない状況。 ・フリー乗降区間の設定について、安全性の観点から新たな区間設定は難しい状況。 				

事業1-6 南相馬～川俣～医大経由福島系統

<p>利用状況 (1日あたり)</p>	<p>◆通学利用者 ・原町駅前 ⇄ 福島駅東口 (1.0名) ※定期券利用人数 ・南相馬市役所 ⇄ 白石 (1.0名) ※定期券利用人数 ◆通勤利用者 ・原町駅前 ⇄ 福島駅東口 (5.0名) ※定期券利用人数 ・飯舘村役場 ⇄ 福島駅東口 (1.0名) ※定期券利用人数 ・飯舘村役場 ⇄ 飯舘までい館 (1.0名) ※定期券利用人数 ・南相馬市役所 ⇄ 福島駅東口 (1.0名) ※定期券利用人数 ・南相馬市役所 ⇄ 長野 (1.0名) ※定期券利用人数 ◆主な利用 ・福島駅東口から原町駅前の利用が最も多くなっている。医大への利用も多い。</p>				
<p>指標</p>	<p>年 度</p>	<p>1日当たりの 利用者数</p>		<p>事業収支</p>	
	<p>令和元年事業年度 <基準値></p>	<p>64.9人</p>	<p>—</p>	<p>23.3%</p>	<p>—</p>
	<p>令和4年事業年度 <現況値></p>	<p>41.8人</p>	<p>↓</p>	<p>17.6%</p>	<p>↓</p>
	<p>令和5年事業年度 <今回評価値></p>	<p>46.3人</p>	<p>↑</p>	<p>16.5%</p>	<p>↓</p>
	<p>令和6年事業年度 <今回評価値></p>	<p>59.9人</p>	<p>↑</p>	<p>18.2%</p>	<p>↑</p>
	<p>目標達成状況</p>	<p>目標値：90.0人以上 (目標未達)</p>		<p>目標：事業収支の上昇 (目標未達)</p>	
<p>施策の取組 状況</p>	<p>①利活用の推進 ・窓口やHPにより周知（南相馬市） ・バス時刻表等のHPへの掲載や村内公共施設での配置（飯舘村） ②運行ルートの見直し ・令和5年10月から飯舘村役場前に停留所を設置。 ③運行ダイヤの見直し ・②の運行ルート見直しに伴い、運行ダイヤを一部変更。 ④長距離、長時間移動の快適性の確保 ・大型バス（高速バスタイプ）を使用し、移動の快適性を確保している。</p>				
<p>課題・取組 の方向性</p>	<p>・利用者数について目標未達となっているが、飯舘村役場前に停留所を新設したことに伴い利用者が増加しており、引き続き利用ニーズの把握、運行ルートの見直し（飯舘方面への延伸など）を検討する。 ・医大を経由しないルート設定について、時間帯による利用状況も踏まえながら、引き続き検討する。</p>				
<p>特記事項</p>	<p>・被災地特例の終了後に国、県補助がなくなった場合、路線維持は困難であるため、利用実態を把握しながら、今後の在り方について要検討。</p>				

事業1-7 富岡～浪江 FH2R 系統

<p>利用状況 (1日当たり)</p>	<p>◆通学利用者 ・通学利用なし</p> <p>◆通勤利用者 ・富岡駅前～大熊町役場 (1.0名) ・富岡駅前～富岡町役場他 (2.7名)</p> <p>◆主な利用 ・富岡駅前、警察署前～とみおかアーカイブミュージアム、富岡町役場、大熊町役場</p>				
<p>指標</p>	<p>年 度</p>	<p>1日当たりの 利用者数</p>		<p>事業収支</p>	
	<p>令和4年事業年度 <現況値></p>	<p>2.5人</p>	<p>—</p>	<p>3.7%</p>	<p>—</p>
	<p>令和5年事業年度 <今回評価値></p>	<p>5.6人</p>	<p>↑</p>	<p>5.1%</p>	<p>↑</p>
	<p>令和6年事業年度 <今回評価値></p>	<p>7.7人</p>	<p>↑</p>	<p>5.1%</p>	<p>→</p>
	<p>目標達成状況</p>	<p>目標値：7.5人以上 (目標達成)</p>		<p>目標：事業収支の上昇 (目標未達)</p>	
<p>施策の取組 状況</p>	<p>① J R 常磐線の役割分担 ・避難地域の中核施設を結ぶ幹線交通及び2次交通の機能を持つ(双葉町) ・町を縦断する J R 常磐線に対して主に浪江駅から東側の中心市街地を含んだエリアを面的にカバーする役割を持つ(浪江町)</p> <p>② J R 常磐線との接続の見直し ・富岡駅では、朝は問題ないものの、夕方の時間帯は接続しておらず、今後接続を見直しする必要がある(富岡町)</p> <p>③ ルート区間の分岐 ・地域の復興進展を踏まえながら、引き続き検討(富岡町)</p> <p>④ 利活用の推進 ・町内で乗降する場合について一律100円で乗降できる補助を実施。公共交通マップを作成し、広域に周知を実施(富岡町) ・窓口へのチラシ設置、ホームページ等による路線の周知(浪江町)。</p>				
<p>課題・取組 の方向性</p>	<p>・沿線自治体、交通事業者間の連携、また、学校・工業団地等の地域情報の収集などを深めて、利用者を掘り起こしていく。</p> <p>・利用者数の目標値は達成しているが、利用人数は低調となっているため、復興途上である地域の移動ニーズを調査し、本系統の利用促進策を検討する必要がある。</p> <p>・F-REIの立地や「浪江駅周辺整備事業」により、今後、居住人口の増加が見込まれることを踏まえ、J R 常磐線との連携やダイヤの見直し等について検討する。</p>				

事業 1 - 8 双葉～南相馬系統

<p>利用状況 (1日当たり)</p>	<p>◆通学利用者 ・通学利用なし</p> <p>◆通勤利用者 ・通勤利用なし (双葉町、浪江町民の通院や買物等の利用目的としてダイヤを設定しているため、通学・通勤の利用実績は現状なし)</p> <p>◆主な利用 ・浪江町から南相馬市内への医療機関、買い物の利用が主な利用となっている。 ・双葉町からも南相馬市内への医療機関、買い物の利用が若干見られる。</p>		
<p>指標</p>	<p>年 度</p>	<p>1日当たりの 利用者数</p>	<p>事業収支</p>
	<p>令和6年事業年度 <今回評価値></p>	<p>2.9人 -</p>	<p>1.1% -</p>
	<p>目標達成状況</p>	<p>目標値：8.0人以上 (目標未達)</p>	<p>目標：事業収支の上昇 —</p>
<p>課題・取組 の方向性</p>	<p><道路運送法第21条に基づく実証運行について></p> <p>・令和5年10月から実証運行を開始している本系統は、本協議会における検討・協議結果を踏まえ、引き続き、利用促進を図りながら令和7年事業年度に限り実証運行を継続する。</p>		
<p>特記事項</p>	<p>・浪江町の復興状況としては、町内のみで買い物や医療が完結しない。 ・実際に、高齢者や障害者の方が浪江町内から南相馬市立病院への通院等で利用されている。</p>		

□施策2 浜通り地方を運行する地域公共交通のDX推進

事業2-1 バス路線へのキャッシュレス決済システムの導入

事業者名	導入システム	導入時期
福島交通株式会社	現行のICカード「NORUCA」の機能を拡充し、新たにクレジットカードのタッチ決済、QRコード決済、電子マネー決済に対応する。	令和6年9月
新常磐交通株式会社	地域連携ICカード「LOCOCA」	令和6年5月

※福島交通(株)及び新常磐交通(株)のキャッシュレス決済システムは、福島県生活路線バスキャッシュレス決済導入支援事業補助金(令和4年度事業(令和5年度に繰越))でシステム整備。

事業2-2 利用実績に基づく公共交通体系の改善

- ◆令和6年度に県内のバス路線(広域路線バス及び域内交通)のGTF S-J Pデータ作成及びオープンデータ化に向けた「(仮称)福島県版地域公共交通データ基盤(プラットフォーム)」の構築を行う。
- ◆キャッシュレス決済の乗降データを活用し、今後、データ利活用の枠組みを策定し、有効・有益な活用方策の検討を進める。

事業2-3 バスロケーションシステムの導入

- ◆令和6年2月から新常磐交通株式会社のバス路線で運用開始。
(GPS等を用いてバスの位置情報を収集し、スマートフォンやパソコンを通じて情報提供するシステム)

□施策3 地域公共交通の維持・確保

事業3-1 域内公共交通の維持・確保

◆福島県市町村生活交通対策事業補助金

- ・地域住民の日常生活に必要な生活交通の確保を図るため、地域の実情に即し主体的に生活交通対策事業を行う市町村に対し、運行費を支援。

◆福島県地域公共交通活性化補助金

- ・地域公共交通計画の策定や当該計画に位置付けられた事業の実施による地域公共交通の活性化や再生を目指す市町村を支援。

⇒ 実証事業を実施した市町村の事例集を作成し、各市町村に横展開を行う。

事業3-2 広域公共交通の域内公共交通の乗り継ぎ環境の改善

- ◆広域バス路線の利用状況を見ながら、効率的かつ利便性の高い移動手段を確保するため、継続的に検討する。

事業3-3 イベントの企画・インセンティブの検討・充実

◆運輸事業振興助成交付金

- ・利用促進啓発（新聞広告、ポスター作成等）

事業3-4 公共交通ネットワークの周知

- ◆関係市町村において運行ダイヤ等を周知

事業3-5 路線バスやタクシーの人材確保

- ◆合同就職説明会、求人情報発信等での連携